



自分らしさを築く

自治医科大学附属病院
リハビリテーションセンター

言語聴覚士 五十畑 舞

「言語聴覚士とは何か？」

皆さん、こんにちは。私は、自治医科大学附属病院リハビリテーションセンターに所属している言語聴覚士です。

言語聴覚士は疾患や傷害、発達により、機能低下のある方々に対して、コミュニケーションが円滑に行われるよう支援しています。また嚥下（飲み込み）の問題にも専門的に対応しています。

「当院での言語聴覚療法」

当院では、現在4名の言語聴覚士が勤務しています。対象としては、コミュニケーション障がい、聴力・発達や嚥下障がいなどです。

まずは、コミュニケーション障がいや摂食・嚥下障がいの有無判定、問題点の抽出や予後予測判定を行い、訓練を開始していきます。例えば、コミュニケーション障がいのある方に対しては、ことばを引き出す訓練（絵カードやプリントの問題、発音練習など）、また嚥下訓練では口腔ケア、嚥下体操、食形態の選定などを行います。

更に早期より、ご家族やチーム医療と呼ばれる様々な職種と連携を図り、退院に向けて支援していきます。

「これからの言語聴覚療法」

言語聴覚士は医療・福祉・教育など年々活躍する機会が増えてきており、今後さらに見込まれると思います。

ことばによるコミュニケーションは、他者には見えにくい障がいの1つです。分かっているが発信することができない、恐怖や失敗体験により、自信の損失へと繋がり、コミュニケーション場面の回避や接触を避ける機会もみられます。そのため、私たちは患者様の心理面にも配慮することが重要です。

かつて患者様から、「話したり、食べたりできないことがこんなに辛いとは思わなかった。できないなら生きていく意味がない。」とお話を伺ったことがあります。私たちは、また患者様が「自分らしさ」を築きあげていくために、これからも支援し続けていきたいです。



その人らしい生活を支援する

自治医科大学附属病院
リハビリテーションセンター

作業療法士 村上 知征

「作業」ってなに？作業療法士ってなにをするの？

作業療法では、人の日常生活に関わる全ての諸活動を「作業」と呼び、「セルフケア（着替え、トイレなど）」、「家事」、「仕事」、「余暇」、「地域活動」の5つに分類しています。作業療法士はこれらの作業が行えるように、医師の指示のもと医療、福祉・介護、保健・教育・職業領域で支援を行うっていく職種です。作業療法の対象は病気や怪我、もしくは生まれながらに障害がある人など、年齢に関係なく、日常生活に支援が必要な全ての人となっています。その人なりのその人らしい生活の獲得を目標に支援を進めていきます。そのため3つの能力を維持・改善することを行っています。3つの能力とは基本能力（運動や感覚等）、応用能力（食事やトイレ等）、社会適応能力（就労・就学等）のことを指し、その人その人の能力や状態に合わせて作業療法士が支援内容を提案しています。

当院での作業療法

現在、当院には8名の作業療法士がおり、脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸・循環器疾患など非常に幅広く対応しています。

急性期の作業療法では、急性期治療中であるためリスク管理を行いながら、前述した基本能力や応用能力への支援の比重が大きくなっています。脳卒中においては動きにくくなった腕や手の機能改善のために徒手療法やお手玉、輸入れ、おはじき等の道具を用いた治療を行います。

また、麻痺のない方でも日常生活を送れるように動作練習や環境調整を行います。その人の生活上での目標に対して、必要な動きを評価し、使用する道具や運動の方向を決めています。また、日常生活で段階的に動きにくくなった腕や手を使用できるように動作方法の指導や環境調整も行います。獲得できた目標動作を病棟や自宅に戻ってからも継続できるように、看護師やご家族との協働が重要だと感じています。また、急性期病院から転院先、在宅での生活を見据えた支援が重要だと実感しています。

